

VIII. 沖縄の2期作水稻の品質・作柄向上に向けた取り組み

1. 一期作での早植え栽培および二期作での遅植え栽培の検討

予備的課題ではあるが、有機栽培技術確立の一環で斑点米カメムシ類の被害回避のため、一期作で通常より5日程度の早植栽培を実施している。6月中旬の収穫で着色粒の発生も少なく、玄米品質も比較的良好であった。このことから斑点米カメムシ対策としての早植は有効と考えられる。しかし沖縄諸島での極端な早植はたびたび季節風の被害に遭遇しており、適正な早植時期（早限）の策定が望まれる。

二期作では近年の高温傾向により通常の作期（8月上旬移植）では高温登熟となることが懸念されることから、品質向上を目的に晩期移植を実施した。

供試品種はひとめぼれ、ちゅらひかり、関東IL 7号、ミルキークイーン、にこまるの5品種系統とした。収量、玄米品質、アミロース含量を調査中である。

2. 二期作に適した高温耐性品種の探索

高温登熟適性を把握するため時期別移植試験を実施した。3月10, 17, 24, 4月1, 25日に移植した。供試品種系統はひとめぼれ、ちゅらひかり、にこまる、西南113号の4品種系統とした。その結果、収量ではひとめぼれが安定しており、玄米品質は西南113号が各移植時期で良好であった。一方、にこまるは一期作では移植時期により晩生化・低収化し、4月25日植ではわずか8.5kg/aであった。